

五斗長垣内遺跡の取り組み

五斗長垣内遺跡は、2012年(平成24年)9月19日に国史跡に指定されました。

遺跡では、地元の方々にご協力いただき、いろいろな取り組みを行っています。

取り組み事例の紹介

遺跡についてともに学び、理解を深める目的で、発掘調査成果をもとに、地域住民の皆さんと鍛冶工房建物の復元にチャレンジしました。



鍛冶工房建物復元風景



遺跡マップ ● マークの場所は復元されました



弥生鍛冶復元実験

学識経験者のご指導をいただきながら、弥生時代の鉄器生産について学び、それをもとに当時の鍛冶技術の復元実験を重ねてきました。



遺跡マップ ● マークの場所で行っています



五斗長 ボランティア活動



“ごっさ鉄器工房”での鍛冶体験

弥生時代の鉄器づくりにチャレンジできる鍛冶体験や組み紐づくり体験のほか、ボランティア活動など、弥生時代の歴史や環境を学ぶ場として利用されています。



古代米収穫体験

ご利用案内

- 開館時間 9:00～17:00
- 休館日 毎週月曜日(祝日の場合は翌平日)
年末年始(12月28日～1月3日)
- 見学料 無料

交通アクセス



お車をご利用の方 北淡ICより山側へ5分

五斗長垣内遺跡活用拠点施設

〒656-1601 兵庫県淡路市黒谷1395-3
TEL/FAX 0799-70-4217
E-mail gossa-iseki@ares.eonet.ne.jp



淡路市教育委員会

国指定史跡

弥生時代の鉄器づくりのムラ

ごっさ かいと い せき 五斗長垣内遺跡



あわ姫

あわ神

なぎ

なみ

淡路市マスコットキャラクター

五斗長垣内遺跡

史跡五斗長垣内遺跡は、弥生時代後期(1~2世紀頃)の鉄器づくりを行ったムラです。23棟発見された竪穴建物跡の内、12棟が鍛冶工房建物であることがわかりました。鉄がとても大切であった弥生時代にあって、発見された建物の半数以上が鍛冶工房であり、しかもそれが同じ場所で100年以上も続いていた他にあまり例をみない遺跡です。

淡路島で発見された“鍛冶屋のムラ”は、“鉄器の時代”に移り変わる社会の様子を知ることができるとても貴重な遺跡なのです。



◀鍛冶作業のイメージ図▶ イラスト:小東豊朗



鍛冶炉

工房跡の地面には、高い熱を受けて、赤く変色している炉跡が発見されています。鍛冶作業が行える温度に達した部分は、さらに固く焼け締まっている様子が観察できます。



石の道具

鍛冶作業に使われた台石や叩き石、砥石といった石の道具がたくさん見つかっています。



発見された鉄器

100点を越える鉄器が見つかりました。鉄器を作るときにできる小さな切れ端が多く見られるほか、矢じりなどの道具も発見されています。



9 一番大きな建物跡
直径10.5m、柱の数は10本の大型建物。少なくとも3回の建て替えが行われていたことがわかっています。建物は建て直すごとに大きくなっていったようです。
“ごっさ鉄器工房”は、この一番大きな建物と同じ大きさに復元した建物で、その中で鍛冶体験を行っています。

3 石器づくりの作業場
最初に建てられた建物跡です。ここでは石の矢じりなどの石器を作っていました。



発見時



クリーニング作業後

8 板状鉄棒
朝鮮半島製の斧(全長約17.8cm)が発見されました。さびや土を綺麗に取り除いて、もとの形がわかりました。



- 1~23...竪穴建物跡
- ...鉄器を作っていた鍛冶工房跡
- ...調査地区